

令和4年3月15日
園長 酒井正美

令和4年度 港区立麻布幼稚園経営計画

—自分が大好き 友達が大好き 笑顔いっぱい 麻布っ子—

1 教育理念（生きる力の基礎を育む幼稚園）

公立幼稚園の使命

- 幼児期にふさわしい生活を通した質の高い教育を実践する幼稚園
- 地域・保護者とともに子供を育てる幼稚園
- 教職員が専門性を高め合い協同（働）する幼稚園

幼稚園は学校教育の始まりです。幼児期の学びは、幼児を取り巻く「人・物・こと」のすべての環境と関わり、直接体験である遊びや生活の中で展開される自発的な活動を通して行われます。一人ひとりの幼児がもつ、生まれながらにして自然に成長していく力と周囲の環境に能動的に働き掛けようとする力を支え、安定した情緒の下で自己を十分に發揮すること、幼児期にふさわしい生活が展開されることを基本に、心身の調和のとれた発達の基礎を培います。

幼稚園教育要領・学習指導要領では、幼児期から高等学校卒業までの学校教育全体において育成すべき資質・能力の3つの柱が示されています。幼稚園では、それぞれの資質・能力を個別に育てるのではなく、遊びや生活を通して一体的に育てていきます。また、地域の公立幼稚園として、子供たちが暮らす地域の環境や人との関わりを深め、家庭と協力して教育を進めてまいります。

幼児期にふさわしい遊びや生活を積み重ねることで見られるようになる具体的な姿としての「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を小学校教員と共有し、子どもたちの「育ちと学び」をつなげていきます。公立幼稚園の教職員として、常に学び、互いに専門性を高め合い、港区の公私立幼児施設の教育の質向上、小学校以降の教育との連携・接続へ貢献するセンター的役割と実践を行います。

幼児教育において育みたい資質・能力（生きる力の基礎を育む）

豊かな体験を通じて、感じたり、気付いたり、分かったり、できるようになったりする
「知識及び技能の基礎」

気付いたことやできるようになったことなどを使い、考えたり、工夫したり、表現したりする
「思考力、判断力、表現力等の基礎」

遊びを通して一体的に育む

心情、意欲、態度が育つ中で、よりよい生活を
營もうとする **「学びに向かう力、人間性等」**

2 麻布幼稚園の教育目標（令和4年度の重点）

げんきな子

やさしい子

かんがえる子

教育目標は、麻布幼稚園に通う子供たちを、3年間でどのような子どもに育てていこうとするのかを目標として示したものです。これら3つの目標に向かい、幼児の遊びや生活を通じて一体的に育てていきます。

今年度は「やさしい子」を重点とし、遊びや生活の中で、様々な「人・物・こと」に出会い、気付き、考え、自分で決めて行動する幼児を育てる教育を進めてまいります。

園内研究では、「自立心」「道徳性・規範意識の芽生え」「言葉による伝え合い」の視点から幼児が発達していく姿を捉え、港区が推進する真の国際人の育成につながる幼児期の教育について、実践から検証をしていきます。

3 幼稚園経営の方針

- ・全ての子供たちを、教職員全員で育てていきます。
- ・幼児、保護者、地域との信頼関係を基盤に幼児の学びを支えます。
- ・確実な感染症対策を行い、安心・安全な環境を保障し、幼児の姿を温かな目で見取り、教員同士のカンファレンスを通してより確かな幼児理解につなげ、発達に必要な環境を整えます。
- ・幼児の育ちゆく方向を意識し、その時期にふさわしい経験が積み重ねられるようにします。小・中学校、保育園との交流・連携を進め、地域の公立幼稚園として幼児教育と小学校教育の円滑な接続を進めます。

<出会う、関わる、笑顔あふれる子ども・保護者・教職員像>

出会う、関わる、笑顔あふれる子ども

- ① 自分のことは自分で子どもの
- ② 早寝・早起き・朝ごはん・朝ウンチ、手洗いをし、自分の健康に関心をもつ子ども
- ③ 全身を使って遊び、安全に対する構えのある子ども
- ④ 好奇心・探究心をもち、「人・物・こと」に積極的に関わり考える子ども
- ⑤ 話す・聞く楽しさ、伝え合う喜びを味わえる子ども
- ⑥ 絵本や物語を楽しみ、豊かなイメージをもつ子ども
- ⑦ 自分の力で行動し、やり遂げる充実感を味わえる子ども
- ⑧ 人とかかる楽しさを味わい、相手の思いに気付ける子ども
- ⑨ よいことや悪いことに気付き、考えて行動する子ども

出会う、関わる、笑顔あふれる保護者

- ① 子どもの思いや成長に気付き、子育てに喜びを感じる保護者
- ② 子どものやる気を見守り、支える保護者
- ③ 学級の子どもたちの成長をともに喜び合える保護者
- ④ 幼稚園の教育活動に積極的に関わり地域とつながる保護者

出会う、関わる、笑顔あふれる教職員

- ① 自らの働き方に改善を図り、心身共に健康で、明るく笑顔で、さわやかな教職員
- ② 相手の状況、思いに気付き、考え、行動できる教職員
- ③ 社会人として、教育公務員として責任感、情熱、使命感をもつ教職員
- ④ 幼稚園全体の子どもたちを、教職員全員で育てる意識をもち、協働する教職員
- ⑤ 自ら資質を高め、研究と修養に励み努め、改善・工夫をする教職員
- ⑥ 子ども、保護者に真摯に向き合い信頼される、専門性をもつ教職員
- ⑦ 地域と幼稚園を愛し、保護者や地域と連携・協働する教職員

4 経営の重点

中期的目標（2年間を目指す目標）

- (1) 幼稚園教育要領に示されている「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を視点に、幼児が育っていく方向を意識し、遊びと生活の充実を保障し、教育目標の達成をめざした教育活動を推進します。
- (2) 教職員一人ひとりが、教育目標や経営方針、働き方改革を自分の課題として捉え、組織の中での役割意識し、相互に協力、学び、成長し合い、総合力を発揮し、園全体で幼児を育てる教職員集団を形成します。
- (3) 麻布学校運営協議会を推進し、麻布小学校・地域との密接な連携を図り、地域の環境を生かした教育を実践し、地域とともにある幼稚園教育を進めます。
- (4) 地域の公私立幼稚園・保育園との交流・連携を進め、同じ地域に暮らす幼児同士の関わりを深めるとともに、教育の質の向上にリーダー的役割を果たし、小・中学校との交流、連携、接続を推進します。

今年度の主な取組

今年度は「やさしい子」を重点とし、遊びや生活の中で、様々な「人・物・こと」に出会い、気付き、考え、自分で決めて行動する児童を育てる教育を進めてまいります。

幼稚園教育要領「幼児期の終わりまでに育つてほしい姿」に示されている、10項目の中「自立心」「道徳性・規範意識の芽生え」「言葉による伝え合い」の視点から児童が発達していく姿を捉え、港区が推進する真の国際人の育成につながる幼児期の教育について、実践を進めます。

(1) 健康な生活リズムと習慣、基本的な生活行動が身に付くようにします。

児童は信頼する大人に支えられながら、生活行動を自分で行うことの必要性や人や物に対する態度を身に付けていきます。また、物事を最後まで行う体験は、自分の力でやろうとする気持ち、諦めずにやり遂げることでの達成感につながり、自信をもって行動するようになります。

①「手洗い、手指消毒」「早寝、早起き、朝ごはん、朝ウンチ」

- ・感染症予防の環境を整え、児童が無理なく取り組めるようにするとともに、視聴覚教材等を活用した各学年の指導を行い、幼稚園・家庭の実践を通して必要感を感じるようにしながら習慣にしていきます。

②「戸外遊び」「タグラグビー教室」

- ・園庭や小学校校庭、屋上を活用し、「戸外遊び」を積極的に取り入れ、「タグラグビー教室」をきっかけに様々な動きを経験させ、心と体を十分に動かせ、体を動かす気持ちよさが感じられるようにします。体を十分に動かして遊ぶことは、安全に気を付けて行動することにもつながります。

③「挨拶」「姿勢」「相手の顔を見て話す、返事をする」「自分のことは自分でする」

- ・登降園時に親子である挨拶、場面や場所に応じた挨拶を経験し、モデルとなる大人の姿を見たり、様々な挨拶の仕方を知ったりし、自分から挨拶をする心地よさを味わうようにします。
- ・「背筋を伸ばす」姿勢を知らせ、食事、挨拶等の機会に実践し、習慣となるようにしていきます。
- ・顔を見て会話をすること、返事をすることは、話の内容を理解することや相手を大切にすることにつながります。実際の場面の経験を通して理解させ、身に付くようにしていきます。
- ・「使ったものは自分で片付ける」「自分の荷物は自分で持つ」「相手に嫌な思いをさせてしまったら謝る」等、自分のことは自分でする経験を重ねるようにします。「自分でできた」という自信がもてるよう支え、次への意欲につながるようにしていきます。

(2) 身近な環境、「人・物・こと」に関心や親しみをもち、遊びや生活に取り入れられるようにします。

児童は身近な環境、地域の環境や人と関わりつながりを深めることを通して、思考力の芽生えや地域社会とのつながりの意識が芽生えていきます。

① 「園庭の環境」「園舎内の環境」「栽培活動」(野菜づくり・親子で花いっぱい)、「木の実の収穫」(サクランボ・梅など)身近な大人や小学生と関わりながら、野菜や花を植え育てる経験、園庭の木の実の収穫や収穫物を使った活動を通して、自分たちの園の環境や自然物を知り、大切にする心がもてるようになります。

- ②「七夕」「もちつき」「節分」「ひな祭り」などの行事、「お茶会」「礼法教室」などの体験を通して、伝統的な行事や日本の文化に親しめるようにします。
- ③幼稚園において周囲の人々と安心して話ができるなどを基盤とし、ほとんどの児童が母語とする日本語において、言葉で伝え合う楽しさが味わえるようにします。「絵本や物語」「お話し会」「親子論語の会」などをきっかけに、言葉の楽しさや美しさに気付き、言葉に対する感覚を豊かにしていきます。
- ④在籍する外国人の児童や保護者に親しんだり、その国の言葉や文化について紹介をしてもらう機会「英語であそぼう」などの機会を通して、興味や関心がもてるようにしていきます。

(3)心動く体験を重ね、豊かな学びへとつなげます。

児童は、教師との信頼関係を基盤に安心して自己を十分に發揮し遊びや生活を通して学びます。主体的に遊び生活をする直接体験の中で、児童が気付き、考え、行動することは豊かな学びにつながります。

- ①「砂」「水」「虫」「植物」「栽培物」などの身近な物や事象にじっくり、繰り返し関わるようになり、物の性質や仕組みを感じ取ったり、気付いたり、予想したり、工夫したりする姿を支えます。
- ②遊びや生活の中で教師や友達と関わり、相手の気持ちに気付いたり、自分とは違う考えがあることに気付いたりする経験が重ねらるようにします。思い通りにいかない悔しさ、友達と一緒に楽しむ楽しさ、自分で考えること、考えたことを行動に移すことなど、様々な感情や体験を通し、新たな考えを生み出したり、物事をいろいろな面から考えたりすることにつなげていきます。

(4)研究を推進し指導力の向上を目指します。

「自分が大好き 友達が大好き あぶっ子 -国際理解に関わる取組を通して-」を研究テーマとし、2年間の港区研究奨励園1年目として、実践から検証を進めます。また、地域の公私立幼稚園施設の教育の質向上、小学校以降の教育との連携・接続へ貢献するセンター的役割と実践を行います。

- ①園内研究会に大学教授を講師として招聘し、年間3回の研究保育を行います。また、主体的で対話的な姿を引き出し、「自立心」「思考力の芽生え」を育む環境の工夫について協議し、実践に生かします。
- ②六本木アカデミー研究授業 協議会を、麻布小学校、南山幼稚園、南山小学校、六本木中学校とともに実施し、教員間で交流し、互いの校種の教育についての理解を深め、連携・接続を推進します。
- ③保幼小合同研修会において、研究授業と連絡会を行い、児童期の終わりまでに育ってほしい姿を共有し、小学校入学への円滑な取り組みについて理解を深めます。

(5)子どもたちの姿や育ちを、保護者・地域と共有します。

児童の教育は、幼稚園・家庭・地域で連続的に行われています。家庭・地域の皆様に、幼稚園の取組を理解していただき児童の姿や育ちを共有することは、児童の望ましい発達の循環につながります。

- ①園便り、学級便りで、幼稚園の方針や学級の運営について分かりやすく伝えます。また、ホームページ、Twitterでは、教育日に発信を行い教育活動の様子を伝えます。Twitterの発信を周知し、家庭・地域からのフォローを増やし、緊急災害時の活用にも備えます。
- ②ホームページ、緊急配信メールを活用し、幼稚園からの情報を迅速に伝えます。
- ③幼稚園公開、行事の参観は、分散した公開や参観などの工夫をして実施し、児童の姿や育ちの理解に

つながるようにします。

④保護者会、個人面談、登降園時、行事後の保護者アンケートなどの機会を活用し、保護者との連絡を密にし、迅速な対応をしていきます。

(6)取組について評価を行い、保護者・地域に報告します。

今年度の教育課程の実施状況について評価し、改善を図ります。

①幼稚園公開、行事等の実施後に、児童の取組の様子や成長、保護者の感想などを基に即時に評価を行い、次年度の実施に生かさるようにします。

②学期ごとの評価、遠足や交流といった項目ごとの評価を行い、年度末の学校評価につなげます。

③今年度の取組について、保護者アンケート、学校運営協議会委員アンケート、教職員アンケートを実施し、自己評価を行います。それらを基に学校運営委員会に評価いただき、今年度の学校評価として次年度の教育課程に生かします。学校評価は、保護者会、ホームページ等で保護者・地域の方々に報告をします。